

機関番号： 12601  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007 ～ 2010  
 課題番号：19320095  
 研究課題名（和文）： 近世日蘭関係史料の相関的研究

研究課題名（英文）：  
 Correlational Study on Dutch Historical Documents Relating to Early Modern Japan  
 研究代表者：松井 洋子 (MATSUI YOKO)  
 東京大学・史料編纂所・教授  
 研究者番号：00181686

## 研究成果の概要（和文）：

文書間の相互関係の検討に基づき、『オランダ商館長日記』の異本、『本国書翰集』等の重要な史料のマイクロフィルムによる蒐集を行ない、既蒐集部分を含めた目録情報を拡充した。19世紀の史料については、植民省文書から、日本関係のファイル *verbaal* を選択蒐集するとともに、毎年の日本からの報告書 *verslag* の翻刻を行なった。『バタフィア発信書翰控簿』については目録情報を史料編纂所のデータベースの一つ *Catalogue Database of the Batavia's Uitgaand Briefboek, 1621-1792 (BUB)* として公開した。

## 研究成果の概要（英文）：

In regard to the whole structure of the source materials, we have collected extra microfilm reproductions of relevant documents, such as alternative versions of the *Dagregisters* (diaries of the Dutch factory in Japan), or copybooks of the letters of the directors of the VOC. We also added metadata of all the collected documents on microfilm. Regarding the sources of the 19th century, we have searched for documents of the Dutch Colonial Ministry and obtained reproductions of files (*verbalen*) concerning Japan. We also made transcriptions of the yearly reports (*verslagen*) from Japan. The *Catalogue Database of the Batavia's Uitgaand Briefboek, 1621-1792 (BUB)*, which was also compiled, can be viewed on the website of the Historiographical Institute.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	2,800,000	840,000	3,640,000
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目： 史学・史学一般

キーワード： 史料学 近世対外関係 日本関係海外史料 日本(オランダ)商館 東インド会社 バタフィア発信書翰控簿

## 1. 研究開始当初の背景

近世の対外関係研究において、日蘭関係は唯一のヨーロッパ国民との関係として大きな重要性を持つ。また、膨大なオランダ側史

料の存在により、外国語史料を用いた国際的視野からの研究が可能である点において、日本史研究の枠に留まらない発展の可能性を持つ。

申請者が勤務する東京大学史料編纂所は、日本学士院、国際学士院連合などとの協力関係の下に、早い時期から「在外未刊行日本関係史料の複本作成」事業に携わり、多くの在外史料をマイクロフィルムにより蒐集し、整理目録化を行ない『日本関係海外史料目録』（既刊 15 巻）を刊行するとともに、各機関の理解を得、図書室において広く公開してきた。

申請者らは、これまでこれらの在外大規模史料群の目録化をすすめ、膨大な量を有する「バタフィア発信書翰控簿」については所収書翰の一点毎目録データを作成し、バタフィアを中心としたオランダの東インド即ちアジア地域における情報の伝達構造を概観する基盤を構築した。

こうした基盤構築はさらなる展開が必要とされている。

## 2. 研究の目的

本研究は、個々の史料間の相互関連に注目しつつ、史料群の構造把握と内容把握をともに高度化し、新たな蒐集を系統的に行なう方途を探ること、データベースの開発等によりツールとしての目録情報をより充実させ、広く国内外に公開していくことによりオランダ語史料の史料学的研究を進めるとともに、個々の研究者のみでは充分になし得ない研究の基盤づくりに寄与することを目的とする。

蒐集物・目録データベースなどの成果の公開によって、将来にわたり研究のための共有財産を形成することを目指す点に特色と意義がある。

当面オランダ語史料を対象とするが、日本語を媒介としないデータベースの検索環境を提供することで、将来は他の言語の史料へも対象を広げることが視野に入れ、日本関係欧文史料の情報を広く国内外の研究者に公開し、日本研究の促進に寄与することを目指したい。

## 3. 研究の方法

(1) 外国語史料を対象とする目録データベースの開発・公開を行なう。

(2) 17-18 世紀のオランダ東インド会社時代の諸形態の文書、19 世紀のオランダ東インド会社解散後の文書を対象に、これまで、日記・書翰集・帳簿といった史料形態ごとに目録情報が作成されてきた個々の文書について、時期、あるいは事件を核にその相互関係を検討する。

(3) 重要な史料について補足的蒐集を行ない、目録情報を蓄積する。

(4) 周辺史料の調査・蒐集をおこなう。

## 4. 研究成果

### A 外国語史料を対象とする目録データベースの開発

当面の対象として、史料編纂所がマイクロフィルムで蒐集し、史料一点毎に作成してきたオランダ国立中央文書館所蔵オランダ東インド会社文書『バタフィア発信書翰控簿』（BUB）の目録データについて、データベース化をおこなった。海外研究者を含めた広い利用を図るため、データベースの検索画面、ヘルプ画面等すべてを英文とし、国内外の研究者から意見を聴取し、検索機能の改良をおこなった上、史料編纂所の公開データベースの一つ Catalogue Database of the Batavia's Uitgaand Briefboek, 1621-1792 (BUB) として、Web 上での公開を開始した。

### B 17-18 世紀、オランダ東インド会社時代の諸形態の文書の検討と蒐集

#### (1) 未蒐集文書の蒐集

研究の進展による蒐集が望まれる史料の範囲拡大に応じ、本科研では以下の史料を新たに蒐集した。

①『オランダ商館長日記』異本のマイクロフィルム蒐集：史料編纂所では未蒐集になっていた日本商館の公務日記のうち、「東インドよりの到着文書」Overgekomen Brieven en Papier en uit Indië に含まれて本国へ送付された 1701 年から 1747 年の写本のマイクロフィルム複本を入手した。これにより、日記の存在する全時期について異本の検討が可能となり、より正確な日記の解読が進展するものと期待される。

②『本国発信書翰控簿』のマイクロフィルム蒐集：バタフィアにおける決定にも大きな影響を及ぼすオランダ本国の東インド会社重役会(十七人会)の指示、命令を含む書翰の写しを集めたのが『本国発信書翰控簿』Kopieboek van uitgaande missiven(, instructies en andere papieren) van de Heeren XVII である。東インド会社の一先機関である平戸/長崎商館の大局的位置づけを知るために、同書翰控簿の 1614~1795 年分全点のマイクロフィルムを入手した。

#### (2) 目録情報の拡充

文書相互間の関連を検討する際の基礎情報となる、個別文書一点毎の目録情報の蓄積を進め、以下のデータ入力を行なっている。

①「東インドよりの到着文書」のうち史料編纂所によるマイクロフィルム蒐集分の目録データの入力

②日本商館文書及び「到着文書」のうち日本関係抜粋の目録データの入力

### C 19 世紀、オランダ東インド会社解散以降の文書の検討

(1) 植民省文書 Verbaal 史料の蒐集

オランダ東インド会社解散後、その資産はすべて国家の手に帰され、バタフィアのオランダ領東インド総督及び同政庁は、各地出先機関とともに本国植民省の支配下にはいる。文書管理システムも大きな変化を遂げ、検索・蒐集にはインデクス(詳細索引)からの関係史料の選別抽出が必要となる。本科研では、植民省文書のうち秘密文書 geheim を対象に、インデクスから日本関係のフルバールの情報(日付 番号等)を抽出し、マイクロフィルムによる複製を入手した。

(2) バタフィア政庁宛報告 Verslag の検討

オランダ東インド会社の解散、本国における文書組織の変化により、日本商館で作成される文書にも変化が見られる。その一つとして、「報告」Verslag という文書に着目した。これは、来航オランダ船が帰帆する貿易年度の終わりに、商館長が当該年度の状況を報告するために作成・発送したものである。日本商館文書(NFJ)の中には、1817年から1860年の間のVerslagの、1849年の分を除く毎年分の控が残っている。

このVerslagに着目する理由は、宛先を含む文書書式が19世紀特有であることとともに、その内容が毎年日本商館の動静、殊に、商館長日記の存在が確認されていない1834年から1842年の時期の状況を知る基本的情報となる可能性を持つことである。そこで、この時期の最初となる1834年と、最後の1840年から1842年のVerslagの翻刻を試みた。これらのVerslagは、財務長官あるいは物産民間倉庫局長を宛先としており、比較的詳細な各商品の取引に関する情報を含む、貿易を中心としたものとなっている。一方、日本の状況や当局との諸交渉についての情報の量は年次によってかなり異なる。報告すべき事項がないと認識された結果か、あるいはVerslag以外の形態での報告がなされていたのかについては未詳である。Verslagについては内容、時期による変化、また同年の他の文書との関係など、今後検討してゆくべきことが多いが、19世紀日本商館のあり方を知る基本史料であることは間違いない。

D 周辺史料の調査

本科研によって、以下のような海外所在の日本関係史料の調査をおこなった。

2007年度

(1) オランダ国立中央文書館

- ①同館所蔵植民省文書のうちバタフィア政庁決議録の調査・撮影及び日本商館文書内に残る抜粋との相互関係の検討を行なった。
- ②同館所蔵オランダ東インド会社文書のうち、本所未蒐集部分についての補充調査を行ない、商館長日記異本のマイクロフィルムによる複製を入手した。

(2) オランダ王立図書館

- ①手稿本室において同館所蔵イザーク・ティツィング手稿本の調査と撮影をおこなった。
- ②同館所蔵の日本に関する情報を含む十九世紀の植物カタログ等を開覧・調査した。

(3) ライデン大学図書館

同館特別閲覧室で、イザーク・ティツィング招来の、同人の書き込みのある日本地図を調査し、部分撮影を行なった。この調査には、ティツィング研究所のフランク・レクイン博士の協力を得た。この調査の成果の一部は、松井洋子/フランク・レクイン「ティツィング・コレクションの長久保赤水「改正日本輿地路程全図」」として発表した。

2009年度

(1) マンチェスター大学ジョン・レイランド図書館(イギリス)

P・F・コルニッキ(Kornicki)氏の同館所蔵日本コレクションの目録(The Japanese Collection in the Bibliotheca Lindesiana. Bulletin of the John Rylands University Library of Manchester vol.75 no. 2 1993.)に基づき、オランダ商館長イザーク・ティツィング旧蔵のオランダ語及び英語の文書・原稿、日本語書籍を中心に調査をおこなった。同図書館には、他にも十九世紀に蒐集された様々な日本書籍・地図が所蔵されている。

(2) ジェノヴァ市キオッソーネ東洋美術館(イタリア)

同館は明治期のお雇外国人キオッソーネ(Chiossone)の日本での収集品約二万点を収蔵しており、その内容は、浮世絵・近世の肉筆画はじめ仏像・甲冑・考古遺物・工芸品など非常に多彩である。ドナテッラ・ファイッラ館長(Dr. Donatella Failla)より、同館の現状について説明を受け、また展示中の収蔵品について案内・解説をいただいた。スタッフの不足から、収集品の目録データベース化等は、現在中断している由であった。

2010年度

(1) オランダ国立中央文書館

同館所蔵の日本商館文書、オランダ東インド会社文書及び日本とかわる個人コレクションであるドゥーフ家文書(Toegangen no. 2. 21. 054)、ビク家文書(no. 2. 21. 024)、パウド家文書(no. 2. 21. 007)について、調査をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

- ①松井洋子「ジェンダーから見る近世日本の対外関係」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係6 近世的世界の成熟』pp. 93-121 査読なし 吉川弘文館 2010年11月)

- ②松方冬子「通訳と『四つの口』」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係6 近世的世界の成熟』 pp.235-250 査読なし 吉川弘文館 2010年11月)
- ③木村直樹「長崎奉行の特権」(『東京大学日本史学研究室紀要別冊 藤田先生退職記念近世政治史論叢』45-55頁、査読なし2010年3月)
- ④横山伊徳「史料編纂とデジタル化のメタヒストリー」(<特集>歴史知識学)『人工知能学会誌』25(1), pp.5-10, 査読なし2010年1月)
- ⑤横山伊徳「日本史研究データベースはどこへ行こうとしているのか」(新年特集 日本史研究とデータベース『日本歴史』740号 査読なし pp.2-8 2010年1月)
- ⑥松井洋子「長崎出島と異国女性—「外国婦人の入国禁止」再考—」(『史学雑誌』118編2号 査読あり pp.1-36 2009年2月)
- ⑦横山伊徳「異国船打払令の時代 海防のアウトサイドヒストリー」(『九州史学』152号 査読なし pp.39-52 2009年1月)
- ⑧松井洋子「フィレネウフェの花嫁—外国人女性の来航をめぐる日蘭の認識と交渉—」(長崎市シーボルト記念館『鳴滝紀要』第18号 pp.1-13 査読なし 2008年3月)
- ⑨木村直樹「18世紀後半の日蘭関係と地域社会—天明期を中心に(大会報告)」(『歴史学研究』833号 査読なし pp.75-84 2007年10月)
- ⑩Yokoyama Yoshinori “Japan and Ryukyu in the Bakumatsu Period as Seen in Overseas Sources” (ACTA ASIATICA 93 査読なし pp.41-57 2007)
- [学会発表] (計8件)
- ①木村直樹「18世紀の対外政策と日本」(2009年度第107回史学会大会近世史部会「シンポジウム 18世紀の近世日本」2009年11月)
- ② MATSUI, Yoko “Compiling Dutch materials for Japanese History” (Seminar: Opening up and Editing of Dutch Sources Relevant for Dutch and Japanese History. Hosted by Instituut voor Nederlandse Geschiedenis and Historiographical Institute, 31st of August 2009, in the Hague)
- ③MATSUKATA, Fuyuko “Catalogue Database of the Batavia’s Uirgaand Briefboek” (Seminar: Opening up and Editing of Dutch Sources Relevant for Dutch and Japanese History. Hosted by Instituut voor Nederlandse Geschiedenis and Historiographical Institute, 31st of August 2009, in the Hague)
- ④ MATSUI, Yoko “Prostitutes and Foreigners in Nagasaki during the Edo Period (Wives, Concubines, Nuns: Early

Modern Japanese Women.” (A Symposium in Honor of Cecillia Segawa Seigle: April 4th, 2009 at University of Pennsylvania).

⑤ MATSUI, Yoko “What distinguished foreigners and how were they treated?” (The 12th International Conference of the European Association for Japanese Studies 21st of September 2008, in Lecce)

⑥ Matsukata Fuyuko “Catholics from Siam?: Dutch Reporting of World News from 1680s to 1750s.” (The 12th International Conference of the European Association for Japanese Studies, 21st of September 2008, in Lecce)

[図書] (計3件)

①松井洋子『ケンペルとシーボルト—「鎖国」日本を語った異国人たち』(日本史リブレット62 山川出版社 89頁、2010年9月)

②木村直樹『幕藩制国家と東アジア世界』(吉川弘文館、313頁、2009年10月)

③松方冬子『オランダ風説書—「鎖国」日本に語られた「世界」—』(中公新書、中央公論新社、216頁、2010年3月)

[その他]

データベースの URL

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松井 洋子 (MATSUI YOKO)  
 東京大学 史料編纂所 教授  
 研究者番号: 00181686

### (2) 研究分担者

横山 伊徳(YOKOYAMA YOSHINORI)  
 東京大学・史料編纂所・教授  
 研究者番号: 90143536

松方 冬子(MATSUKATA FUYUKO)  
 東京大学・史料編纂所・准教授  
 研究者番号: 80251479

木村 直樹(KIMURA NAOKI)  
 東京大学・史料編纂所・助教  
 研究者番号: 40323662

### \* 研究協力者

石川 徹也 (史料編纂所 特任教授)

石田 千尋 (鶴見大学教授)

田中 葉子 (史料編纂所 研究支援推進員)

西澤 美穂子 (専修大学非常勤講師)

イサベル・田中・ファン・ダーレン  
 (日蘭学会)

シンティア・フィアレイ  
 (ライデン大学研究員)

ワウテル・E・ミルデ  
 (オランダ歴史学研究所編纂委員)